

川崎市建築物環境配慮制度受付番号 17015

建築物名称	日通商事株式会社東京LSセンター川崎拠点新棟建設計画
建築主	日通商事株式会社 代表取締役社長 新居 康昭
建築物の所在地	川崎市川崎区田辺新田13-1他
設計者氏名、建築士事務所名	松永 均 戸田建設株式会社横浜支店 一級建築士事務所
工事種別	新築
床面積の合計	16,457.82m ²
用途	工場(非製造)
構造	鉄骨造
階数	地上2階
工事完了年月	平成30年8月
自然エネルギーの利用 (利用を検討した自然エネルギーの種類)	太陽光発電、太陽熱利用
自然エネルギーの利用 (利用を決めた自然エネルギーの種類)	なし

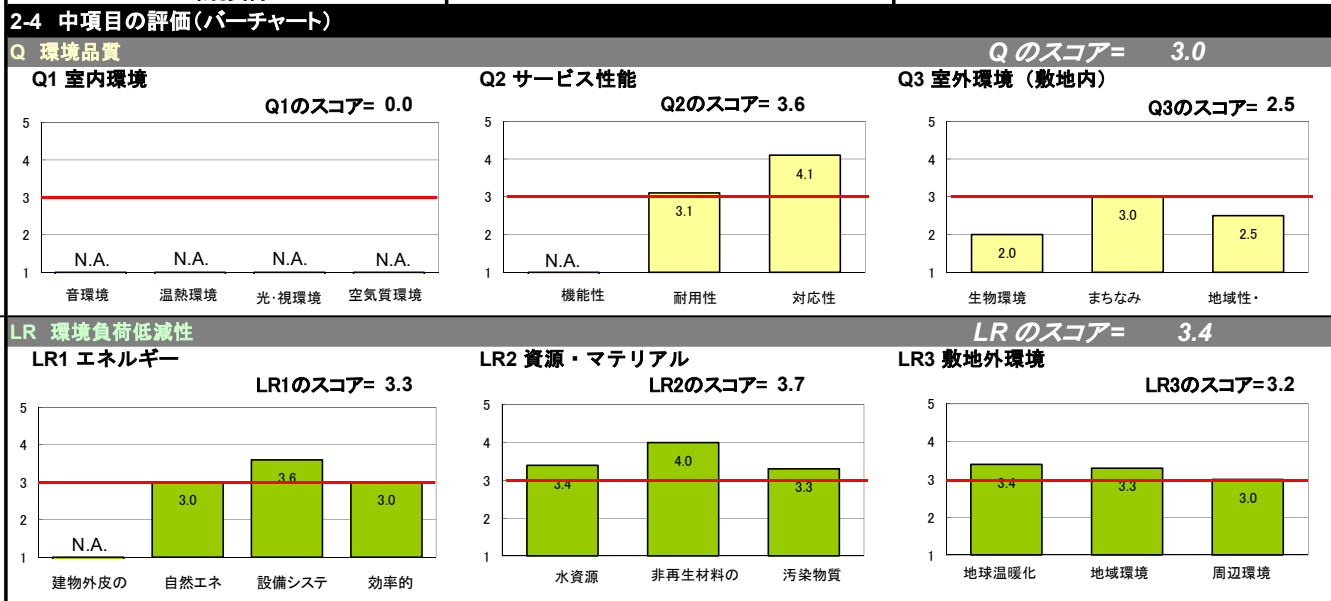
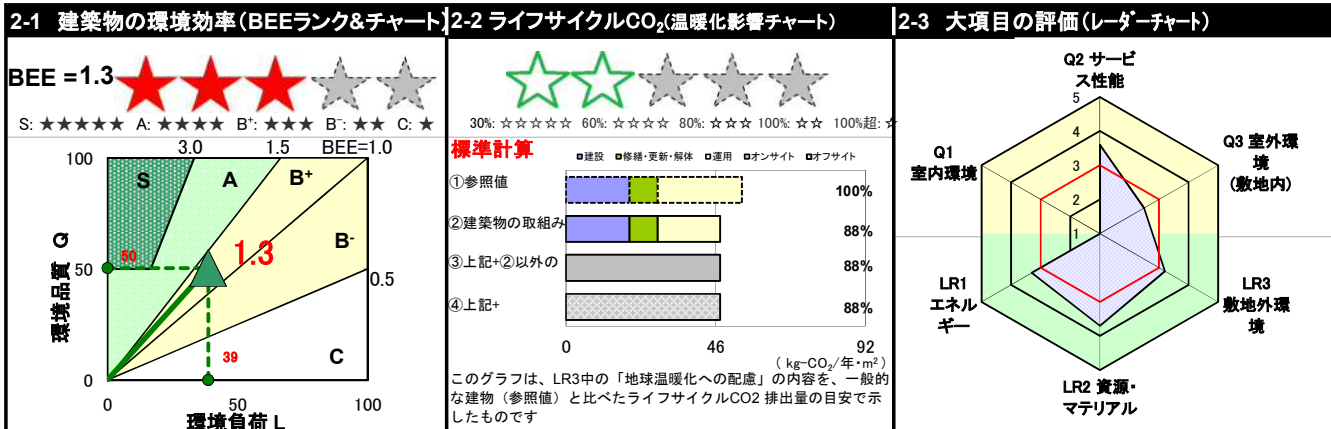
CASBEE川崎

■使用評価マニュアル: CASBEE-川崎2017年版

使用評価ソフト: CASBEE-川崎2017(v.1.0)

評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	日通商事(株)東京LSセンター 川崎拠点新棟建設計画	階数	地上2F
建設地	川崎市川崎区田辺新田13-1他	構造	S造
用途地域	工業専用地域、法22条の地域	平均居住人員	140人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,232 時間/年(想定値)
建物用途	工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年8月 竣工	評価の実施日	2017年7月11日
敷地面積	17,087 m ²	作成者	戸田建設株式会社 横浜支店
建築面積	10,263 m ²	確認日	2017年7月11日
延床面積	16,458 m ²	確認者	戸田建設株式会社 横浜支店



■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目についての環境配慮概要		実績重点項目スコア 合計/ 重点項目最高スコア合計	重点項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
緑の保全・回復(G)		Gの平均点	2.8
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出			
2 まちなみ・景観への配慮		2.3/4.3	2.6
3 3.2 敷地内温熱環境の向上			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0
地球温暖化防止対策の推進(W)		Wの平均点	3.1
Q-1 ■ 室内環境対策			
2 2.1 2.1.2 外皮性能		0.0/0.0	-
3 3.1 3.1.3 昼光利用設備			
3.2 3.2.1 昼光制御			
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出		1.1/2.3	2.3
3 3.2 敷地内温熱環境の向上			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制			
2 自然エネルギーの利用		3.4/5.0	3.4
3 設備システムの高効率化	BEI=0.74		
4 効率的運用			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護	節水型器具等の採用		
2 非再生性資源の使用量削減	躯体と仕上げの分別が容易な構造(LGS下地)、フリーアクセスフロアの採用。	3.5/4.7	3.7
3 3.2 フロン・ハロンの回避			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0
資源の有効利用による循環型地域社会の形成(R)		Rの平均点	3.7
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 部品・部材の耐用年数	耐用年数の長い内部仕上材の採用。	0.5/0.8	3.4
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
1 水資源保護	節水型器具等の採用	3.1/4.0	3.9
2 非再生性資源の使用量削減	躯体と仕上げの分別が容易な構造(LGS下地)、OAフロアの採用。		
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.3 地域インフラへの負荷抑制		0.2/0.4	2.8
ヒートアイランド現象の緩和(H)		Hの平均点	2.9
Q-3 ■ 室外環境(敷地内)対策			
1 生物環境の保全と創出		1.1/2.3	2.3
3 3.2 敷地内温熱環境の向上			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制			
2 自然エネルギーの利用		3.4/5.0	3.4
3 設備システムの高効率化	BEI=0.74		
4 効率的運用			
LR-3 ■ 敷地外環境対策			
2 2.2 温熱環境悪化の改善		0.5/0.8	3.0

注)重点項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

重点項目への貢献点の平均点 **3.1**

ライフサイクルCO2評価対象項目についての環境配慮概要		実績スコア合計/ 最高点のスコア合計	ライフサイクル CO2評価対象 項目への 貢献点注) (5点満点)
内訳対応項目	各項目について配慮した内容を記述してください。		
建設段階			
Q-2 ■ サービス性能対策			
2 2.2 2.2.1 躯体材料の耐用年数		0.1/0.2	3.0
修繕・更新・解体段階			
LR-2 ■ 資源・マテリアル対策			
2 2.2 既存建築躯体等の継続利用		0.8/1.3	3.0
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			
運用時のエネルギー			
LR-1 ■ エネルギー対策			
1 建物外皮の熱負荷抑制			
2 自然エネルギーの利用		3.4/5.0	3.4
3 設備システムの高効率化			
4 効率的運用			

注)ライフサイクルCO2評価対象項目に該当する評価項目の得点(重み係数付)を集計し、当該項目の最高点の合計に対する貢献度を示した点数。

スコアシート	実施設計段階				環境配慮設計の概要記入欄	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
	重点項目	G	W	R		H	評価点	重み係数	評価点	
配慮項目										
Q 建築物の環境品質										3.0
Q1 室内環境										
1 音環境										
1.1 室内騒音レベル										
1.2 遮音										
1 開口部遮音性能										
2 界壁遮音性能										
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)										
4 界床遮音性能(重量衝撃源)										
1.3 吸音										
2 温熱環境										
2.1 室温制御										
1 室温										
2 外皮性能					W					
3 ゾーン別制御性										
2.2 湿度制御										
2.3 空調方式										
3 光・視環境										
3.1 昼光利用										
1 昼光率										
2 方位別開口										
3 昼光利用設備					W					
3.2 グレア対策										
1 昼光制御					W					
3.3 照度										
3.4 照明制御										
4 空気質環境										
4.1 発生源対策										
1 化学汚染物質										
4.2 換気										
1 換気量										
2 自然換気性能										
3 取り入れ外気への配慮										
4.3 運用管理										
1 CO ₂ の監視										
2 喫煙の制御										

Q2 サービス性能					0.43	-	-	3.6
1 機能性					-	-	-	-
1.1 機能性・使いやすさ					-	-	-	-
1	広さ・収納性			-	-	-	-	-
2	高度情報通信設備対応			-	-	-	-	-
3	バリアフリー計画			-	-	-	-	-
1.2 心理性・快適性					-	-	-	-
1	広さ感・景観			-	-	-	-	-
2	リフレッシュスペース			-	-	-	-	-
3	内装計画			-	-	-	-	-
1.3 維持管理					-	-	-	-
1	維持管理に配慮した設計			-	-	-	-	-
2	維持管理用機能の確保			-	-	-	-	-
2 耐用性・信頼性					3.1	0.50	-	3.1
2.1 耐震・免震・制震・制振					3.0	0.50	-	-
1	耐震性(建物のこわれにくさ)			3.0	0.80	-	-	-
2	免震・制震・制振性能			3.0	0.20	-	-	-
2.2 部品・部材の耐用年数					3.4	0.30	-	-
1	躯体材料の耐用年数	R		3.0	0.20	-	-	-
2	外壁仕上げ材の補修必要間隔	R		2.0	0.20	-	-	-
3	主要内装仕上げ材の更新必要間隔	R		5.0	0.10	-	-	-
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	R		3.0	0.10	-	-	-
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	R		5.0	0.20	-	-	-
6	主要設備機器の更新必要間隔	R		3.0	0.20	-	-	-
2.4 信頼性					3.0	0.20	-	-
1	空調・換気設備			3.0	0.20	-	-	-
2	給排水・衛生設備			2.0	0.20	-	-	-
3	電気設備			3.0	0.20	-	-	-
4	機械・配管支持方法			4.0	0.20	-	-	-
5	通信・情報設備			3.0	0.20	-	-	-
3 対応性・更新性					4.1	0.50	-	4.1
3.1 空間のゆとり					4.6	0.30	-	-
1	階高のゆとり			5.0	0.60	-	-	-
2	空間の形状・自由さ			4.0	0.40	-	-	-
3.2 荷重のゆとり					5.0	0.30	-	-
3.3 設備の更新性					3.2	0.40	-	-
1	空調配管の更新性			3.0	0.20	-	-	-
2	給排水管の更新性			3.0	0.20	-	-	-
3	電気配線の更新性			3.0	0.10	-	-	-
4	通信配線の更新性			5.0	0.10	-	-	-
5	設備機器の更新性			3.0	0.20	-	-	-
6	バックアップスペースの確保			3.0	0.20	-	-	-
Q3 室外環境(敷地内)					-	0.57	-	2.5
1 生物環境の保全と創出				G W H	2.0	0.30	-	2.0
2 まちなみ・景観への配慮				G	3.0	0.40	-	3.0
3 地域性・アメニティへの配慮					2.5	0.30	-	2.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上					2.0	0.50	-	-
3.2 敷地内温熱環境の向上				G W H	3.0	0.50	-	-

LR 建築物の環境負荷低減性										3.4			
LR1 エネルギー										0.40	-	-	3.3
1 建物外皮の熱負荷抑制		W	H							-			-
2 自然エネルギー利用		W	H						3.0	0.13			3.0
3 設備システムの高効率化		W	H	[BEQ][BEIm] =	0.74				3.6	0.63			3.6
4 効率的運用									3.0	0.25			3.0
集合住宅以外の評価									3.0	1.00			
4.1 モニタリング		W	H						3.0	0.50			
4.2 運用管理体制		W	H						3.0	0.50			
集合住宅の評価													
4.1 モニタリング		W	H										
4.2 運用管理体制		W	H										
LR2 資源・マテリアル										0.30	-	-	3.7
1 水資源保護		W	R						3.4	0.20			3.4
1.1 節水									4.0	0.40			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用									3.0	0.60			
1 雨水利用システム導入の有無									3.0	0.70			
2 雑排水等利用システム導入の有無									3.0	0.30			
2 非再生性資源の使用量削減									4.0	0.60			4.0
2.1 材料使用量の削減		W	R						4.0	0.11			
2.2 既存建築躯体等の継続使用		W	R						3.0	0.22			
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用		W	R						3.0	0.22			
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用		W	R						5.0	0.22			
2.5 持続可能な森林から産出された木材		W	R						-	-			
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み		W	R						5.0	0.22			
3 汚染物質含有材料の使用回避									3.3	0.20			3.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用									4.0	0.30			
3.2 フロン・ハロンの回避									3.0	0.70			
1 消火剤		W							-	-			
2 発泡剤(断熱材等)		W							3.0	0.50			
3 冷媒		W							3.0	0.50			
LR3 敷地外環境										0.30	-	-	3.2
1 地球温暖化への配慮		W							3.4	0.33			3.4
2 地域環境への配慮									3.3	0.33			3.3
2.1 大気汚染防止									5.0	0.25			
2.2 温熱環境悪化の改善		G	W						3.0	0.50			
2.3 地域インフラへの負荷抑制									2.5	0.25			
1 雨水排水負荷低減									3.0	0.25			
2 汚水処理負荷抑制									3.0	0.25			
3 交通負荷抑制									3.0	0.25			
4 廃棄物処理負荷抑制									1.0	0.25			
3 周辺環境への配慮									3.0	0.33			3.0
3.1 騒音・振動・悪臭の防止									3.0	0.40			
1 騒音									3.0	1.00			
2 振動									-	-			
3 悪臭									-	-			
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制									3.0	0.40			
1 風害の抑制									3.0	0.70			
2 砂塵の抑制													
3 日照障害の抑制									3.0	0.30			
3.3 光害の抑制									3.0	0.20			
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策									3.0	0.70			
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策									3.0	0.30			